

2026年度

法学部人文科学・自然科学研究会紹介

— 法学部副専攻認定制度 —

慶應義塾大学 法学部

目次

法学部「副専攻認定制度」について	2
------------------	---

人文科学研究会		
担当者	テーマ	
有光 道生	アメリカ文化論	4
礪崎 敦仁	北朝鮮研究	5
岩下 綾	ルネッサンス	6
大出 敦	フランス文学と日本	7
大隼 エヴァ	アラブの声:メディアを通じて	8
大和田 俊之	アメリカの音楽文化	9
奥田 暁代	アメリカの文化と社会	10
片山 杜秀	日本の思想と文化	11
熊代 敏行	ことばの分析-発見の喜びを求めて	12
熊野谷 葉子	ロシアおよび関連地域の文化と社会	13
佐藤 元状	フィルム・スタディーズ——現代アジア映画編	14
島田 美和	「周縁」から見る中国	15
常山 菜穂子	パフォーミング・アーツ研究	16
永嶋 友	イギリス文化・社会とメディア	17
檜橋・アンリ, ナタリー	Société française	18
浜田 和範	世界の文学を読む	19
星野 真志	近現代イギリスの文化と社会	20
本谷 裕子	ラテンアメリカの文化と社会	21
林 秀光	環境史からみる人間と自然の関係	22

自然科学研究会		
担当者	テーマ	
小野 裕剛	生命科学にかかわる諸問題	23
小林 宏充	身の回りの科学研究 (物理学)	24

法学部「副専攻認定制度」について

専門以外の関心事を追求し、副専攻として認定してもらおう

法学部の学生であるみなさんは、まずは法律学科目や政治学科目といった専門科目をしっかりと学んでください。それが基本。

でも、専門さえ学べばそれでよいのでしょうか。実は皆さんには、以前から関心を持っている分野があるのではないのでしょうか。「ひそかに小説家志望である（できれば文学賞をもらいたい）」「生物を観察していて飽きない」「日本語は言語として面白すぎることに気付いた」「神社仏閣めぐりにはまっている」などなど…

大学には、専門以外の知的好奇心を満たすため、さまざまな授業があります。法学部ではそれらを「人文科学科目」「自然科学科目」などとして、一定単位数を履修することになっています。それらの授業を通して、ぜひ皆さんが興味を持っていることを学問的に掘り下げていってください。

興味のおもむくままに広く浅くランダムに科目を履修していくのは大いに結構。だけど、テーマを決めて計画的に学び、もう一つの専門といえるほど質量ともに充実した知識や研究を積み重ねることができたらもっと素晴らしいのではないか。というわけで始まったのが「副専攻認定制度」です。これは副専攻としての学士号を与えるものではありませんが、興味があるテーマに関連する科目を履修し、条件を満たした学生には「法学部副専攻認定証」が授与されます。数多くの科目の中から関心のある科目を自分で探し出し、知識や研究を自主的に組み立てていくことを奨励する制度です。知とは、あるいは知の喜びや楽しさとは、自由と自発性の上に花咲くのです。

副専攻認定の条件：単位取得・卒業研究

副専攻認定のための条件は2つあります。

1. ひとつの領域やテーマについて、それに関連する科目を合計16単位以上取得していること。
この16単位以上の中には、3・4年次に履修する「人文科学研究会」「自然科学研究会」が含まれます。外国語科目および専門科目（法律学科生の法律学科目、政治学科生の政治学科目）は「関連する科目」とは認められません。
2. 人文科学の場合は3・4年次の2年間、自然科学の場合は3年次か4年次の1年間、それぞれ「人文科学研究会」ないし「自然科学研究会」を履修すること（留学のためにこれらの科目に不足単位が出る場合は、留学先で履修した科目の単位によって補充することが認められる場合もあり）。さらに卒業論文レベルの成果をまとめ、提出すること。なお、研究会の担当者によっては履修条件を設ける場合があります。

研究会は少人数授業ですから、教員や学生同士で刺激を与えたり受けたりしながら、濃密な時間を過ごすことができます。これこそが大学の授業の醍醐味です。

もうちょっと詳しく！ 人文科学の場合

日吉設置の関連する科目を8単位以上と三田設置の「人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ」を8単位、合計16単位以上取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。

必須要件1：日吉設置の関連する科目（合計8単位以上）

必須要件2：三田設置の人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ（各学期2単位、合計8単位以上）＋卒業研究
ロースクールを目指す早期卒業者は3年間で修了することもできますが、人文科学研究会の単位数が4単位不足します。日吉で人文科学特論を4単位分取得しておくか、3年次に人文科学研究会Ⅰ・Ⅱをもう1コマ履修して4単位取得し、不足分を補うことができます。あるいは人文科学特論と人文科学研究会の両方で4単位取得でも構いません。詳細は、各人文科学研究会担当者に問い合わせましょう。

副専攻（人文科学）認定の例①：アメリカの文化と社会

1・2年次 地域文化論 [アメリカ]Ⅰ～Ⅳ（各学期2単位、合計8単位）、他

3・4年次 人文科学研究会（アメリカ文化研究）（各学期2単位、合計8単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

もうちょっと詳しく！ 自然科学の場合

日吉設置の実験科目（科目名に「実験を含む」と記述があるもの）6単位以上と、三田に設置された「自然科学研究会 III・IV」（IIIとIVは同一の担当者）4単位以上を取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。さらに、前述の科目を含めて、関連する科目の取得合計単位数が16単位以上となる必要があります。

必須要件1：日吉設置実験科目＝物理学I・II、化学I・II、生物学I・II
（各学期3単位から合計6単位以上）

必須要件2：三田設置自然科学研究会 III・IV（同一の担当者）
（各学期2単位、合計4単位以上）＋卒業研究

自然科学研究会 III・IVは3、4年生対象の科目であり、履修に際しては日吉設置の実験科目を含め、関連する科目8単位以上をすでに取得していることが原則です。また、自然科学研究会の履修は、原則として3年次か4年次の1年間です。ただし、担当者によっては2年間の履修を課していることもあり、その場合は特例として合計8単位が認められます。詳細については、各担当者の個別説明を参照して下さい。

副専攻（自然科学）認定の例：生物学

1・2年次 実験科目（必修）：生物学I・II（各学期3単位、合計6単位）

自然科学科目：心理学I・II（各学期2単位、合計4単位）、自然科学総合講座I（学期2単位）、他

3・4年次 自然科学研究会 III・IV（生物学）（各学期2単位、合計4単位）、他＋卒業研究
⇒合計16単位以上

人文科学研究会、自然科学研究会履修の際の注意

履修を希望する学生は、Web履修申告システムによる履修申告手続のほか、初回授業に必ず出席をし、担当者の許可を受けてください。履修希望者が多すぎる場合は、選抜を行うこともあります。本ファイルの各研究会のページを必ず確認してください。

副専攻認定へのおおまかな流れ

〔入学時〕 本ファイルの内容をよく読み、関心のある人文科学研究会、自然科学研究会を見つける。

〔1・2年次〕 関心のある研究会のページに記載された「関連する科目」として履修をすすめる科目を参考にしながら、日吉で関連する科目を履修する。

〔2年次11月～12月〕 日吉で開かれる副専攻認定制度の全体説明会、各研究会の個別説明会に出席して、研究計画を立てる上での参考にしてください。

〔3・4年次〕 人文科学研究会ないし自然科学研究会を履修。卒業制作を提出。

現時点では副専攻認定を受ける決心がつかない人も、ここに書いてある条件を意識して授業を取っておけば、3年生や4年生になって決めることもできます。

副専攻認定制度と人文科学・自然科学研究会については以下のサイトでより詳しく知ることができます。

副専攻〔人文科学研究会／自然科学研究会〕（法学部HP＞副専攻）

<https://www.law.keio.ac.jp/cross-listed/submajor.html>

法学部における副専攻の理念と研究会の例を紹介。

「副専攻認定制度」（塾生サイト＞日吉キャンパス法学部＞授業）

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor.html>

副専攻認定制度についての詳しい説明、最新の「法学部人文科学・自然科学研究会紹介冊子」

（PDF）、開講科目一覧など。2026年度三田で開講される副専攻のプログラムはここで確認。

研究会紹介・成果一覧・卒業制作論文（上記いずれのサイトからもアクセス可能）

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor-list.html>

公開されている卒業制作論文はここで読める！

研究会一覧（法学部ゼミナール総合サイト）

<https://keiolaw.org/seminar>

各研究会が活動の様子や先生について自ら語るページ。写真多数。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： ^{ありみつ} 有光 ^{みちお} 道生
テーマ：アメリカ文化論
授業内容： 本研究会では、日々目まぐるしく変化する米国の社会や文化を複眼的な視点から理解するためのリサーチ方法を習得することを目指します。前期は文献の輪読を通じて、これまでに蓄積されてきたアメリカ研究の方法論の理解に努め、後期は各自が関心をもつテーマについて調査・研究を行い、その成果を口頭で発表してもらいます。授業の形式や内容については、受講者とも相談しながら適宜変更・調整していく予定です。
事前の準備： アメリカ地域文化論を未履修の場合には、鈴木透『実験国家アメリカの履歴書(第2版)』(慶應義塾大学出版会、2016年)を事前に通読してから授業に参加するようにしてください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 副専攻の認定を目指さない学生、1年間のみの履修を希望する学生、他学部所属の学生の履修も歓迎します(ただし、留学などの理由で半期のみの履修については要相談)。 なお、副専攻の認定を希望する場合は、日吉に設置されたアメリカ研究関連科目(「地域文化論 I~IV」「人文科学特論」など)から8単位以上を履修し(これ以外の科目についての認定は個別に相談を受け付けます)、さらに三田設置の研究会を2年間継続して履修し、所定の単位を取得すること(卒業論文の執筆を含む)が必要です。
その他： 質問・相談があれば michioari@keio.jp まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： いそざき 儀崎 あつひと 敦仁
テーマ：北朝鮮研究
授業内容： 北朝鮮を題材に、自らの問題意識を鮮明にし、それを解明する力を養う少人数授業。春学期には、北朝鮮に関する文献を輪読する。朝鮮語のほか、ベトナム語文献などにも取り組みたい。秋学期には、輪読を継続するとともに、各自の関心にもとづいた研究発表を行う。4年次に論文を提出することになる。
事前の準備： (1) 次の文献を必ず読んでおくこと。 平岩俊司『北朝鮮：変貌を続ける独裁国家』中公新書、2013年。 菊池嘉晃『北朝鮮帰国事業：「壮大な拉致」か「追放」か』中公新書、2009年。 和田春樹『日朝交渉 30 年史』ちくま新書、2022 年。 (2) 北朝鮮に対する自らの関心事項について 2,000 字程度で整理しておくこと。<u>春学期初回授業前日まで提出を要する。</u>
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 地域文化論(東アジア・朝鮮半島)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 地域文化論(東アジア・中国)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人文科学特論 など
その他： ・ 毎回相当な準備を要するため、履修には相応の覚悟が必要である。 ・ 朝鮮語のほか、基礎的なベトナム語などを読解可能な学生が望ましい。 ・ 2 年間履修して確実に論文を提出できる、積極的な学生のみ受け入れる。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：岩下 ^{いwashita} 綾 ^{あや}

テーマ：ルネッサンス

授業内容：「ルネッサンス」というと、ミケランジェロ、ラファエロ、レオナルド・ダ・ヴィンチと、イタリアの芸術家がよく知られていますが、この運動は少し遅れてフランスにも到達します。ラブレールやロンサール、モンテーニュが筆をとり、カトリヌ・ド・メディシスに仕えたノストラダムスが予言詩を残し、錬金術師ニコラ・フラメルは「賢者の石」を探しました。イングランドでトマス・モアが『ユートピア』を発表し、ポーランドでコペルニクスが、イタリアでガリレオが地動説を唱えたのもこの時代です。

今年度新設される本研究会は、ルネサンス期の文化・社会・芸術・歴史などを広く対象とします。担当教員の専門はフランスの文芸とレトリック、架空の物語と建築（お城や庭園）の関係ですが、この時代は権力者も知識人も、芸術家からスパイまでさまざまな役割を兼任して汎ヨーロッパ的に活動をしていましたし、さらには大航海にも出ますので、地域・分野ともに制限は特に設けません。時代に関しても、ルネサンス期に文芸復興するギリシャ・ローマからおおよそ17世紀あたりまでを視野に入れ、時代の連続性を意識して学びます。

春学期には、ルネサンスに関する文献を輪読します。内容に加えて、文献の読み方や集め方、テーマの論じ方を学び、それを自身の関心領域に応用してみましょ。秋学期には輪読を継続しつつ、各自の関心に基づいた研究発表を行います。和やかに、お互いにとって有益なフィードバックが得られる場をみなさんと作っていきたいと思っています。

歴史映画の鑑賞や、展覧会・舞台鑑賞などの課外活動も、随時検討していきます。

事前の準備：

日吉設置の「地域文化論（フランス）」を履修しておく、フランス語の知識があるとよいですが、必須ではありません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論、人文科学特論、文学など。

法学部副専攻認定のためには、日吉設置の「地域文化論I～IV」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、当研究会を2年継続して履修することが必要です。

その他：

副専攻認定を目指さない学生、半期・1年のみの登録も歓迎します。所属する学部や学年は問いません。研究会に関する質問などは、aya.iwashita@keio.jp までどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：大出 ^{おおで あつし} 敦

テーマ：フランス文学と日本

授業内容：

この研究会では、フランス文学と日本をテーマにします。私自身は、ポール・クローデルという 20 世紀を代表する詩人・劇作家を専門としていますが、滞日中、日本の神社仏閣、祭礼、習俗を細かに観察し、日本人の魂観、神観念などを浮き彫りしています。クローデルの日本論は、欧米人の観察した日本の民俗学となっています。また彼以外にも、ミッシェル・ルヴオン、アーネスト・サトウ、チェンバレン、ラフカディオ・ハーンなども日本のさまざまな民俗を観察していますし、ラムスウッドは、日本の方言に着目しています。彼らは日本をどのように見たのかということを研究会の大きなテーマにしたいと思っています。

研究会では、クローデルの日本論品をテキストにして、読書会形式で批判的読解していくとともに、受講生のみなさんにはクローデル以外の欧米人のテキストから、日本人の死生観や神観念や言霊を表す文章や作品を見つけ出し、それらを相互に比較して、明治から大正時代にかけての欧米人が日本をどのように見ていたかを明らかにすることを予定しています。一方、受講生が成果物として制作する論文のテーマは、日本に関心を示したフランスの作家・文化人・芸術家、あるいはフランスから影響を受けた日本の作家・文化人・芸術家の作品をさまざまな観点から分析するものであれば、自由に設定して問題ありません。

事前の準備：

「私たちは、主観的観点からしか客観という理想を発展させられない」(マルクス・ガブリエル) ということをご心掛けて下さい。閃きや思いつきは論文の種ですので、大切に育ててあげて、客観的な成果としてアウトプットできるようにして下さい。事前に準備しなければならないものは、特にありませんが、時間のあるときに以下のような参考文献を読んでおいて下さい。

- ・大出 敦『余白の形而上学：ポール・クローデルと日本思想』
- ・アルバム・クローデル編集委員会編『詩人大使ポール・クローデルと日本』

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

日吉に設置されている「地域文化論（フランス）」「文学」「人文科学特論」などの人文科学に関する科目を履修してあることが望ましいですが、特に制限はありません。

その他：

履修に関する質問等は以下のメールアドレスにして下さい。atsushiode@keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：大 ^{おお} 隼 エヴァ
テーマ：アラブの声:メディアを通じて
授業内容： 「アラブ世界」は23の国々から構成されているが、しばしばひとまとめにされてしまう。この授業では、特定の社会を反映するメディア（映画や番組など）を通じて社会の理解を深め、論文講読を組み合わせることで、よりバランスの取れた視点を養うことを目指す。 アラブ諸国の社会構造や問題に焦点を当て、その多様で豊かなテーマを深く探求するとともに、学生自身の意見形成も目指す。春学期および秋学期を通じて、さまざまなメディアジャンルを通じてアラブ世界に関する知識を広げ、議論を通じて専門性を高めていく。 軸概念：アラブ社会問題／社会的価値観・道徳／政治思想／世俗主義／政治的イスラーム／
事前の準備： 必然的ではないが、以下の文献の閲覧を勧める。 Margaret K. Nydell. 2018. <i>Understanding Arabs, 6th Edition: A Contemporary Guide to Arab Society</i>. Intercultural Press. London. Jillian Schwedler. 2019. <i>Understanding the Contemporary Middle East</i>. edited by Deborah J. Gerner and Jillian Schwedler. Holmes & Meier Publication. Albert Hourani. 2013. <i>A History of the Arab Peoples</i>. Faber & Faber. Noha Mellor, Khalil Rinnawi, Nabil Dajani, and Muhammad I. Ayish. 2019. <i>Arab Media: Globalization and Emerging Media Industries</i>. Polity. 黒田彩加. 2019. 『イスラーム中道派の構想力：現代エジプトの社会・政治変動の中で』。ナカニシヤ出版。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 以下の科目をすすめるが、本授業の履修条件ではない。 人文科学特論（アラブ思考法）Ⅰ、Ⅱ 地域文化論（アラブ世界）Ⅰ、Ⅱ
その他： 推奨する科目を履修できない場合でも構いませんが、授業への積極的な参加と議論に積極的に貢献することが要求されます。無断欠席が3回以上になると成績に影響しますので、ご注意ください。所属する学部や学年は問いません。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：おおわだ としゆき大和田 俊之

テーマ：アメリカの音楽文化

授業内容：

本研究会ではアメリカの音楽文化を中心に取り上げ、少人数の演習形式で論文などを購読する。R&B、ヒップホップ、ジャズ、ブロードウェイ・ミュージカル、カントリー、ロック、ブルースなどアメリカの音楽を歴史や社会との関わりにおいて考察し、音楽文化の様々な分析手法を学ぶ。音楽ファンだけでなく、文化研究や批評理論などに関心がある学生を歓迎する。(特定のジャンルが好きな学生は、別のジャンルにも知的な関心を持ってほしい。) 個々の研究テーマとしては、音楽とジェンダー／人種／階級、ファン・コミュニティの様相、テクノロジー／メディアの発展と音楽文化などがありうるだろう。また、日本のポピュラー音楽文化との関係も視野におきながら議論を進めたい。三年生は主として三田祭で配布する同人誌を編集し、四年生は卒業論文の執筆に取り組む。

事前の準備：

副専攻認定を希望しない学生の履修も認めるが、アメリカ史に関する基本的な知識を習得しておくこと。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

副専攻認定のためには日吉設置の「地域文化論(アメリカ)ⅠからⅣ」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、当研究会を二年継続して履修・単位取得することが必要。

その他：

研究会に関する質問などは、tohwada@gmail.com まで。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：奥田 おくだ 暁代 あきよ

テーマ：アメリカの文化と社会

授業内容：

アメリカ研究(American Studies)の研究会です。おもに人種／エスニシティに関わる問題を取りあげています。履修者各自が決めたテーマで研究発表を行い、論文を執筆します(論文集を作成)。授業では、文献を読みながら、おもに発表／ディスカッションを通じてアメリカについての知識を養います。

2025年度は、2024年の大統領選挙で顕在化したアメリカ社会の問題——分断、民主主義の危機、大衆操作など——について考えました。南部ルイジアナ州のティーパーティー運動支持者を分析した A・R・ホックシールドの『壁の向こうの住人たち——アメリカの右派を覆う怒りと嘆き——』(*Strangers in Their Own Land*, 2016年)を精読しながら、トランプ大統領を支持する(南部)白人層について文化的側面から考察しました。秋学期には、マイケル・サンデルの『実力も運のうち——能力主義は正義か?』(*The Tyranny of Merit: What's Become of the Common Good?*, 2020年)を読みながら、さらにアメリカ社会の分断の深層を探りました。

2026年度は、2010年に出版した *The Warmth of Other Suns: The Epic Story of American Great Migration* によって全米批評家協会賞を受賞するなど高く評価されているジャーナリストのイザベル・ウィルカーソン(Isabel Wilkerson)の2作目『カースト——アメリカに渦巻く不満の根源——』(*Caste: The Origins of Our Discontents*, 2020年)を取りあげます。ウィルカーソンは黒人女性として初めてピューリッツァー賞のジャーナリズム部門を受賞しています。『カースト』を精読しながら、アメリカの階層的な社会構造、植民地時代から続く不平等、カーストと人種との関連などについて、歴史や文化の視点から考察します。

事前の準備：

日吉設置の「地域文化論(アメリカ)」を履修しておく、あるいはアメリカの文化や社会に関する本を読んでおくことが望ましいですが、必須ではありません。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

「地域文化論(アメリカ)」、「人文科学特論」(アメリカ文化関連)

その他：

法学部副専攻認定のためには、日吉設置の「地域文化論 I～IV」、「人文科学特論」のうち8単位を履修した上で、研究会を2年継続して履修してください。

問い合わせ先：aokuda@keio.jp

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：かたやま片山 もりひで杜秀
テーマ：日本の思想と文化
授業内容：「日本の思想と文化」について学ぶ研究会です。みんなで学び、個々人でも学んでもらいます。みんなで学ぶというのは、履修者全員で文献を読むということです。「日本の思想と文化」を知るための基礎的文献を、その年の履修者の志向に配慮しながら、なるべく幅広く読んで、報告して貰い、疑問を出し合い、討論します。視聴覚資料の鑑賞も行います。日本映画を観ることも多いです。たとえば『砂の器』や『ノストラダムスの大予言』など。個々人で学ぶというのは、個人でテーマを持って個人研究してもらおうということです。研究の対象は幅広く許容します。これまでのメンバーの個別研究テーマは、三島由紀夫、大江健三郎、安部公房、沼正三、野田秀樹、土方巽、岡崎京子、岡本喜八、市川猿之助、尾崎豊、二・二六事件、戦争画、日蓮、歌舞伎の女形、YMO、禅、京都、ゴジラ、新宿、日本の野球などです。授業の形態は、輪読、視聴覚資料鑑賞、個別テーマの発表、見学、その他を組み合わせでゆきます。普通のゼミのやり方だと思います。合宿も例年ですとどこかの季節に一回行っています。副専攻として履修する場合は、遅くとも3年生の秋学期のうちには個別の研究テーマを確定してもらい、4年生のときに論文かそれに相当する何らかを提出してもらいます。
事前の準備：履修を希望する方は初回の授業に必ず出席してください。その際、「履修希望の理由、自分の興味関心、何を研究してみたいか」を1000字程度にまとめて、初回授業前日まで moto-katayama@keio.jp まで送ってください。質問等あれば同じメールアドレスにください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目 担当者の人文科学特論などは近い傾向を有します。
その他：履修希望者数がゼミ形式というには多いとか、その他何らかの理由があれば、初回の授業で選考します。上記の作文が選考の主要な材料となるでしょう。副専攻の認定に必要な単位として何が認められるか認められないかについては個別に相談しましょう。副専攻の認定を求めない方の履修も問題ありません。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：くましろ としゆき
熊代 敏行

テーマ：ことばの分析－発見の喜びを求めて

授業内容：

本研究会では、実際のデータを集め、ことばを分析することに取り組んでもらいます。対象の言語は、日本語でも英語でも、その他の自分の興味のあるどんな言語でもかまいません。その中でも、日本語のネイティブ・スピーカーとして、普段使用している日本語の言い回しを分析し、いかに複雑極まりない使い分けを難なく使いこなしているかということに気づいてもらうのがよいかと思います。

データの収集は、アンケート調査、各種コーパスの利用など、生のデータを集めるところから始めます。最初は五里霧中の状態でも、全く気づかなかった規則性が突然見つかるという「発見の喜び」を体験してもらいたいと思います。

副専攻科目として履修を希望する学生も、通常の授業として履修する学生も、他学部の学生も等しく歓迎します。授業は、気になることばについて、調べ、発表し、フィードバックをもらうという流れになります。そして、可能であれば、それを論文という形でまとめることを目指してください。研究は、個人研究でも、共同研究でもかまいません。先輩が始めた研究を後輩が継続するという形態も歓迎です。

受講希望者は、初回の授業に参加するか、もしくはその前に下の担当者メール・アドレスに受講を希望する旨を連絡して下さい。

参考までに、過去の学生による研究テーマをいくつか挙げます。

- ・「なにげに初めて」、「さりげに人気」－連動することばの変化」
- ・「キャンセル界限」、「片目界限」－世にも不思議な界限の世界」
- ・「未来を、試着しよう。」－商品広告における言語学的逸脱性の魅力」
- ・「コーヒーニューニュー」、「透明なハートで生きたい」－購買意識をそそる言葉の仕組みとは？」
- ・「でめたしでめたし」、「かあちゃん、ふともも！」－クレヨンしんちゃんのギャグの深淵を探る」
- ・「「じゃけん」と言えない広島県民！エセ方言を使ってしまう心理とは？」
- ・「十年後、「ワンチャン」残り、「ぴえん」は消える？若者言葉の流行・定着・消滅の研究」
- ・「櫻井&相葉、結婚」？新聞記事における曖昧性回避法とは？」

事前の準備：

副専攻として本研究会を受講する学生は、日吉で言語学Ⅰ～Ⅳや人文科学特論などの言語学関連の授業を履修していることが求められます。

何より、気になる言い回しを普段から探しておきましょう。「カモシカのような脚」は果たしておかしいのか、まだ終了していないのに「アプリを終了しています」というのはどういうことか、「いつ選挙が行われるのかどうかわからない」はどこがおかしいのか、「エリザベス女王」はなぜ「じょおう」ではなく、「じょうおう」と発音されるのかなどなど、日常の日本語に注意を向けておいてください。以下の本は、そんな気になる言い回しを解説した本です。

北原保雄 編著 (2004-2011), 『問題な日本語』, 『続弾！問題な日本語』, 『問題な日本語 その3』, 『問題な日本語 その4』, 大修館書店。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

法学部設置の言語学Ⅰ～Ⅳ、人文科学特論(言語学をテーマとするもの)。

その他：

履修に関する質問は、メール(tkumashi+tu4@keio.jp)で随時受け付けます。お気軽にどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：くまの や ようこ
熊野谷 葉子

テーマ：ロシアおよび関連地域の文化と社会

授業内容：

この研究会では、ロシアおよび旧ソ連諸国や東欧諸国などロシアと関係の深い地域の文化と社会に関して、広く深く研究します。基本的に各自が興味を持つテーマについて調査研究を進め、それを毎週発表しあっては議論を通じて理解を深める、という方法で進めていきます。法学部ゼミナール総合サイトの紹介ページも見てください。

https://keiolaw.org/kumanoya_yoko/

研究会には一学期だけでも参加でき、その場合は三カ月でレポートを一本仕上げることになります。文献調査や基本的な論文の書き方を学びましょう。二年間を通じて研究会に所属し、副専攻論文として力作を仕上げる学生も毎年のように出ています。2024年度の副専攻認定論文はロシア語の貴重な一次資料を駆使した高橋秀歩君の「ソ連の民族強制移住政策とカザフ共和国 1939-1945」で、以下の塾生サイトで公開されています。

https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/files/19.32157140_takahashi.pdf

2025年度もウクライナやロシアでテレビが大統領選挙や政権維持に果たしてきた役割を追究する研究が進行中ですので、2026年春頃には塾生サイト「過去の研究会各成果について」の「2025年度」に公開されるでしょう。

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor-list.html>

ロシアや関連する地域の文化、歴史、社会などに関心のある方を待っています。ロシア語の知識は必須ではありません。質問はいつでも熊野谷 (kumanoya@keio.jp) へメールでお問合せください。

事前の準備：

自分が論文にしたいテーマ、また皆で勉強したいテーマについて、初回の授業で話せるよう考えておくこと。副専攻の認定を目指す人は、これまでに単位を取得した科目を確認し、卒業論文に相当する論文を提出できるよう、論文のテーマを考えておきましょう。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論ロシア I, II, III, IV

その他：

ロシア語の知識はなくても構いませんが、いろいろな外国語ができればそれだけアクセスできる資料や文献が広がります。研究会に集まった各人が持てる能力や知識を活用し、情報を共有しあって共に考えましょう。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：佐藤^{さとう} 元状^{もとのり}

テーマ：フィルム・スタディーズ——現代アジア映画編

授業内容：

本研究会では、フィルム・スタディーズについて学習していきます。春学期は、アメリカ映画、ヨーロッパ映画、アジア映画と毎年テーマを決めて、みなさんと一緒に映画史上重要な作品を観て、議論していきます。みんなで映画を一緒に観て、自分たちの感じたこと、考えたことを共有していくかけがえのない時間になること請け合いです。秋学期は、各自の研究テーマに沿って、プレゼンテーションをして、論文を書くことに集中していきます。余裕があれば、映画研究のテキストの輪読なども交えていきたい、と考えています。ちなみに 2026 年度は、日本を中心に現代アジア映画について学習していきます。濱口竜介、三宅唱、小森はるか、諏訪敦彦、新海誠、エドワード・ヤン、侯孝賢、ツァイ・ミンリャン、イ・チャンドン、アピチャップン・ウィーラセタクンなどを扱っていく予定です。

事前の準備：

ふだんからなるべく多く映画館で、新作を観て、それについて自分の頭で深く考えるようにしておいてください。映画はみなさんの人生の指針を与えてくれるはずです。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

人文科学特論、地域文化論、文学など、日吉で人文科学系の授業をきちんと履修しておいてください。それほど難しく考える必要はありません。自分の興味を深めていくことが大切です！ 副専攻としては、「イギリスの社会と文化」、または「芸術」での副専攻が望ましいと思います。ただし、個別に相談にのります。

その他：

質問があれば、メールをください！ motsato@keio.jp 毎年「論文集」を刊行しています。

なお今年は、地域文化論（イギリス）担当教員一同で個別説明会を行います。

12/17（水）12:30-12:55@J21 教室で開催したいと思います。来れない方は Zoom 配信を！

<https://keio-univ.zoom.us/j/81576532295?pwd=UWnbfXaVY1dpXb86Z9Nh9whSFf4s9Y.1>

Meeting ID: 815 7653 2295

Passcode: 170453

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：島田 美和
しまだ みわ

テーマ：「周縁」から見る中国

授業内容：

本研究会では、中国に関わる事象を多角的な視点から読み解くために、「周縁」というキーワードを用い学習を進めます。中国という研究対象は、人文科学や理工系との学際的な協働のもとで、様々な角度から分析が可能です。本研究会では、皆さんがこれまでとは異なる新しい視点で中国や東アジアを分析することを通じて、重層的な視野を獲得することを目的とします。研究対象としては、少数民族、台湾、香港、華僑ネットワーク、マイノリティ、ジェンダー、メディア、さらには学際的な研究が求められる科学や環境などが挙げられます。春学期は、基本的な知識と関心事を見つけるため、上記テーマに広く関わる文献を履習者の関心のもとで決定し講読・議論します。その他、国内における中国文化に関連するフィールドワークの実施、卒業制作、夏合宿での土木公共事業の視察と他大学の理工学分野の教員・学生との交流を行います。

事前の準備：

自分にとって関心のあるテーマや、現在どのような視点から中国を学び分析したいのか考えておいて下さい。初回授業で伺います。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論（東アジア・中国）、人文科学特論（東アジア・中国）、文献講読（中国）、日吉、三田を問わず関心のある専門領域の科目の履修を広く推奨します。副専攻認定のために必要な「関連する科目」については、研究会での卒業制作と研究会以外に履修した科目との関連性を説明できれば、広く認定します。

その他：

新3、4年生のいずれも履修することができます。授業は、3、4年生合同の週1回です。履修者には卒業制作を課題とし、副専攻認定証が授与されることを目指してもらいます。

不明な点があれば、Eメール（shimako@keio.jp）にいつでも連絡して質問・相談してください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：常山 つねやま なほこ 菜穂子

テーマ：パフォーミング・アーツ研究

授業内容：

本研究会は2007年に発足したのち教員の留学等による2度の休会を挟みながら、2024年度に再開しました。2026年度は第14期生を募集します。

パフォーミング・アーツを研究対象とします。戯曲に限らず映画、ミュージカル、ダンス、ネットフリなどの配信コンテンツ、ディズニーなども射程に、これらの表象芸術が、いかに同時代の政治経済、国家国民、思想宗教の影響を意識的／無意識的に受けながら形成されているかを検討し、作品に反映された人と社会を浮き彫りにします。その際には多様なアプローチ方法があります。たとえば人種、ジェンダー・セクシュアリティ、階級、地域性、外国との比較や日本での受容の視点から考えたり、さらには、スポーツやテーマパーク、裁判などを広義のパフォーマンスとしてとらえ研究対象にすることもできるでしょう。わたし自身は初期アメリカ演劇を専門としていますが、ゼミ生が行う個々の研究を通して、さまざまなパフォーマンス・シーンについて一緒に学びたいと思っています。

当研究会では、アメリカに関する研究は「アメリカの文化と社会」または「芸術の批評と創作」いずれかの分野で副専攻を認定します。演劇学や創作、アメリカ以外のパフォーマンス（ウィーンやフレンチ・ミュージカル、四季や東宝・宝塚、ハリウッド以外の映画など）に関する研究は「芸術の批評と創作」の分野で副専攻を認定します。

各回の授業では、基本的な研究方法や背景を学ぶために講義と文献講読を行うと共に、履修者が各自のテーマを設定し、研究成果のプレゼンと論文／研究ノート執筆をします。

事前の準備：

授業で扱う文献などは履修者の希望を広く取り入れたいので、履修希望者は初回授業までに、自身の関心事や本研究会において何を勉強したいか考えておいて下さい。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

「地域文化論Ⅰ～Ⅳ」「人文科学特論」「文学」「歴史」「音楽」などの科目

これらの科目は、自身の関心事・テーマに沿った内容であればアメリカ関係に限定しません。

その他：

- ・副専攻の認定を受けない学生、1年間のみの履修、他学部生、留学前後も歓迎します。
- ・質問・相談は常山 tsune@keio.jp まで！

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：永嶋 ながしま ゆう 友

テーマ：イギリス文化・社会とメディア

授業内容：

この研究会では、イギリス文化・社会とメディアについて広く学んでいます。イギリスの文化入門、プロパガンダ映画、タブロイド紙、ビートルズ、ロック音楽、アーサー王伝説、アリス作品とアダプテーション、リアリティーショー、サステイナブル・ファッション、動物、チャリティ、ステンドグラスなど、さまざまなトピックを扱ってきました。また、メディアを広い意味で捉え、多種多様なメディアすべて、媒介性を有するものすべて、メディアに関連する事柄すべてを研究対象としています。多分野を横断する研究をぜひ目指してください。活気あふれる研究会を一緒に作っていきましょう。

研究会の授業・活動内容は、参加者と相談しながら柔軟に決めています。基本は日本語・英語文献の輪読です。また、必須ではありませんが、好きなテーマで個別の研究・制作を進めてもらい、できれば3年生の後期までに、遅くとも4年生の前期までにテーマを確定し、4年生の後期に卒業論文・制作を提出することを目指していただきます。そのためのプレゼンテーションやワークショップにも随時取り組んでもらいます。卒業論文・制作の完成後は、ゼミウェブサイトでの公開を予定しています。お茶会、映画・演劇鑑賞、夏季・春季休暇中の活動等も随時検討しています。副専攻認定を目指さない学生、他学部生、半期・一年のみの履修生も歓迎です。今のところ、入ゼミ選考なしで履修いただけます。最新・詳細情報はゼミウェブサイトをご確認ください。過去のイギリス部門の説明会の動画、過去に扱った文献例、ゼミ活動記録などもこちらにあります：<https://nagashimaseminar.wixsite.com/home/about>

事前の準備：

特にありませんが、輪読の回は多少の予習が必要になります。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論、人文科学特論、文学などをおすすめします。「イギリスの文化と社会」や「芸術の批評と創作」での副専攻が望ましいです。質問・相談等はメールやウェブサイトからお気軽にどうぞ。

その他：

メールアドレス：yu.nagashima★keio.jp (★を@に変換)。

2025年12月17日(水) 12:30~12:55 に日吉 J21 教室でイギリス部門の研究会の説明会を開催します
(佐藤元状先生と星野真志先生と合同)。リアルタイムで Zoom 中継もします：

<https://keio-univ.zoom.us/j/81576532295?pwd=UWnbfXaVY1dpxb86Z9Nh9whSFf4s9Y.1>

(Meeting ID: 815 7653 2295 Passcode: 170453)。ぜひご参加下さい！

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者： ^{ならはし} 檜橋・アンリ，ナタリー
テーマ：Société française
授業内容： Dans ce séminaire, nous étudions divers aspects de la société française, d'une part à partir de documents étudiés collectivement, d'autre part à travers les recherches de chacun. Les documents étudiés durant le cours peuvent être des articles de journaux ou de revues spécialisées, des rapports d'enquête ou des statistiques, portant sur différents sujets. Les thèmes de la recherche individuelle sont choisis selon les intérêts (exemples de thèmes étudiés : la laïcité, l'évolution des valeurs, les politiques à l'égard des pays anciennement colonisés, le mariage pour tous, immigration et logement), les avancées et résultats sont exposés oralement et discutés, le travail doit finalement mener à la rédaction d'un rapport. Les buts du séminaire sont l'acquisition de connaissances sur la société française, par les discussions la pratique de l'échange d'idées, et, les cours se déroulant en français autour de documents rédigés en français, de permettre un approfondissement des compétences en langue française.
事前の準備： La langue du séminaire est le français, il est donc nécessaire d'avoir un niveau satisfaisant de compréhension et expression orales. De même, un bon niveau de compréhension écrite est demandé pour avoir accès aux documents en français.
「関連する科目」として履修をすすめる科目： Tous les cours ayant la société française ou un de ses aspects pour sujet, ou en traitant, sont considérés en rapport avec le séminaire.
その他： 質問、相談は nhenry@keio.jp までどうぞ。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：はまだ かずのり浜田 和範
テーマ：世界の文学を読む
授業内容： いわゆる「欧米」として慣例的に認識される地域には、アジア、オセアニア、アフリカ、さらにはラテンアメリカ、果ては東欧と呼ばれる地域が隣接しています。この研究会は、そんな場所で書かれてきた文芸作品を吟味し、彼ら／彼女らの声が私たちに届けるものが何であるのかを解き明かし、それを論文という形でまた新たな読者に受け渡していく試みです。 春学期では「帰郷」というテーマの下、トルコのノーベル賞作家オルハン・パムクの『雪』(2002)、そしてメキシコの作家フアン・ビジョーロの『証人』(2004) という2つの長篇小説を講読します。どちらも、いわゆる権威主義的とされる国家に長年ヨーロッパで暮らした主人公が帰還するという筋立てを共有しながら、それぞれの土地が持つ歴史の重み、その中であるいはその外で生きることの意味を深く問う作品です。春学期はこの2作をめぐり、内容や形式について報告・討議を重ねつつ、同時に関連文献を参照しながら作品の論じ方を身につけます。並行して、自分が言葉を尽くしてみたいと思える対象を定め、秋学期ではその対象作品や関連文献を読みながら論文を書き進め、討議を経て磨き上げていきます。
事前の準備： あなたが立とうとする地平はあまりに広く、ともすれば途方に暮れてしまいます。とはいえやはりその景色の中で、論文の形で言葉にしてみたい対象(テーマ、作家、地域、個々の作品など)を可能な限り定めつつ、初回授業に臨んでもらいたいと思います。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 副専攻認定を目指す人は、日吉で開講される「文学」「地域文化論」「歴史」「芸術」「人文科学特論」など自分の興味ある地域・分野に関連する科目を履修しておいてください。
その他： 担当教員はラテンアメリカ文学を専門としていますが、世界の文学に関しては知らないことだらけです。皆さんが培ってきた個々の知識を、積極的に供してほしいと思います。授業では、基本的に日本語訳のある作品・関連文献を取り扱います。1年間のみの履修、他学部生の履修も歓迎します。 個別に質問のある場合は、kazhamada[at]keio.jp ([at]を@に替える) までご連絡ください。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当ほしの まさし者：星野 真志

テーマ：近現代イギリスの文化と社会

授業内容：20 世紀から現在までのイギリスの文化と社会について学びます。2026 年度で開講 3 年目となる新しい研究会です。過去 2 年の授業では、映画を観ることと小説を読むことを中心にしてきました。学生の興味・関心に応じて、教員が読書課題（小説だけでなく詩やノンフィクションもあり）や視聴する映画・音楽などを選定し、それをもとに受講生全員で議論をおこないます。また、大学外でイギリス関連の映画上映や美術展などがある場合は、遠足をするかもしれません。

担当教員は、作家ジョージ・オーウェルを中心にイギリスの文学と映画について研究してきました。音楽や美術についても調査しており、多様な関心をもった学生を歓迎します。また、これまでの研究において、文化・芸術を社会から切り離されたものとして鑑賞するのではなく、社会・政治との関連で検討する手法をとってきたので、授業でも文学や映画に見られる社会・政治的テーマ（階級、人種、ジェンダーなど）を扱うことが多いです。なので、イギリスだけについて考えるというよりも、現代の世界において広く共有される問題について、文化を通じて考えを深められればと思っています。

教室で映画を観る回（一学期に 3～4 回を予定）は、全編鑑賞した上で議論を行うので、5 限終了後も延長します。授業後の予定はなるべく空けておいてください。2025 年度は各学期に一度ずつ、三田キャンパス周辺の飲食店で懇親会を開催しました。大体毎学期 5～10 人程度の、少人数で和やかな雰囲気です。

事前の準備：イギリス文化のどのような側面に興味があるのかを考えておいてください。受講を検討する方は、「こんなテーマは扱えるの？」といった疑問があれば、気軽にメールをください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：副専攻認定を得るためには、「関連する科目」から 8 単位以上を履修する必要があります。それに該当するのは、「地域文化論」、「文学」、「人文科学特論」などです。必ずしもイギリスを中心的に扱ってなくても、地域問わず文化・文学についての科目であれば関連科目に含めます。美術や哲学などの科目も関連すると言えるでしょう。また、副専攻認定を目指さない学生や他学部の学生の参加も歓迎します。

その他：具体的な質問は masashi.hoshino@keio.jp までメールでお問い合わせください。

12 月 17 日（水）12:30～12:55 に日吉 J21 教室で、ほかのイギリス文化を専門とする研究会（佐藤元状先生・永嶋友先生）と合同で、イギリス部門の個別説明会を開催します。リアルタイムで Zoom 中継もします。（<https://keio-univ.zoom.us/j/81576532295?pwd=UWnbfXaVY1dpxb86Z9Nh9whSFf4s9Y.1>
Meeting ID: 815 7653 2295, Passcode: 170453）ぜひご参加下さい。

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：本谷 裕子
ほんや ゆうこ

テーマ：ラテンアメリカの文化と社会

授業内容：

『日本の抱える諸問題を、ラテンアメリカ的発想(スペイン語圏だけでなくポルトガル語圏のブラジル・フランス語圏のカリブ海の国々も含む)の事例から解決してみよう!』これが私たち本谷研究会の掲げるテーマです。みなさんはまず、ご自身の関心に沿った研究テーマを考えてください。南北アメリカ大陸、スペイン、そしてアフリカ大陸をも網羅する大スペイン語圏、そこに加わるポルトガル圏、研究地域の広さはピカイチです。みなさんの、ユニークかつオリジナリティあふれる柔軟な発想に更なる磨きをかけてみましょう。

2025 年は「資源の宝庫・現代メキシコを知ろう・学ぼう」というテーマのもと、ビジネスや経済の視点からメキシコの事例を学び、日本は今後メキシコとどのような形で連携していくことができるのかを考えています。また、当研究会ではフィールドワークと称して、都内・都下のラテンアメリカコミュニティやレストランを散策する課外活動も積極的におこないます。2025 年には、三田キャンパスで第四回 OGOB 会をおこないました。先輩・後輩の絆の深さも当研究会の魅力のひとつです! 今後も毎年 12 月に開催する予定です。

事前の準備：

副専攻としての認定を受ける場合には、なるべく 1~2 年生のときに、自分が扱うテーマに関連科目(外国語科目は除く)を 8 単位分履修しておいてください。地域文化論I~IV(イベリア半島)、地域文化論I~IV(ラテンアメリカ)のいずれかの単位が少なくとも 2 単位含まれることが望ましいです。先輩方には、1・2 年次にスペイン語を選択していなかった、スペイン語圏に関して学ぶ地域文化論の授業を履修していなかった人もいました。その点に関しては随時対応していきます。第一回授業の際、ご自身の関心を 1200 字程度にまとめたものを提出してください。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

地域文化論I~IV(イベリア半島)、地域文化論I~IV(ラテンアメリカ)のいずれかの単位が少なくとも 2 単位含まれることが望ましいのですが、日吉で取得した科目を研究会での研究テーマと結びつけて考えることも可能です。

その他：

質問のある人はいつでもこちらへどうぞ → yhonya@keio.jp

みなさんとお目にかかれることを楽しみにしています。Te espero con los brazos abiertos.

法学部副専攻認定制度
人文科学研究会
(3・4年生)

担当者：林 秀光
りん しゅうこう

テーマ：環境史からみる人間と自然の関係

授業内容：

歴史研究は、これまで人間同士の多様な関係を描いてきたが、テクノロジーの進歩により、いまや人間とAIとの関係も注目されるようになっている。こうした新たな時代状況を理解するうえで、人類に生存と文明の基盤を与えてきた「自然」との関係を改めて見つめ直すことが、ますます重要になっている。

本研究会では、文明の誕生と環境、国際社会におけるパワーバランスの不均衡と環境、災害・疫病・資源開発、環境変化と保護など、自然と人間社会とのあいだで生じる諸問題を取り上げ、環境史の分野横断的な視点から学ぶ。現代社会に生きる者として、自然と人間の関係に対する理解と見識を深めることを目的とする。

さらに、中国をはじめとする東アジア地域における環境史研究の動向を把握し、問題発見を通じて、従来の歴史研究に「人間と自然の相互関係」を捉える環境史的アプローチを導入することを目指す。これにより、新たな研究分野の開拓と知的創造の可能性を探求する。本研究会が、受講者それぞれの専門知識を生かしつつ、互いに刺激し合い、学びを深める場となることを期待している。

事前の準備：

- ① 入ゼミの選考は行いませんが、入ゼミを希望される場合は、一言お知らせいただくとありがたいです。法学部以外の塾生も履修可能ですので、同様にご連絡ください。
- ② 授業のスケジュールや輪読書については、法学部（三田キャンパス）のシラバスをご確認ください。2025年度秋学期は、拙著『中国共産党と三峡ダム——国家プロジェクトの政治過程』（慶應義塾大学出版会）を輪読するとともに、4年生による卒業論文の発表を行っています。ゼミの参観を歓迎します（毎週金曜日3限、三田キャンパス525B教室）。

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

特に決まった履修指定はありません。環境史はさまざまな分野にまたがる学問なので、関心のある授業を自由に選び、卒論づくりにつなげていってください。

その他：

通年での履修が望ましいが、特別な事情がある場合は相談可。問い合わせは担当教員まで。

xlin@keio.jp

法学部副専攻認定制度
自然科学研究会
(3・4年生)

担当者：おの ひろたけ 小野 裕剛

テーマ：生命科学にかかわる諸問題

授業内容：

皆さんの主専攻は法律学や政治学ですが、ヒトの生命・特に遺伝子に関連した分野を扱うことは少なくないでしょう。このクラスではその背景を掘り下げたいと希望する学生を対象とし、資料(英文原著論文など)の読解を通じて、背景となる生物学的知識を体系化する能力を養います。

例年、この科目による副専攻認定には原則として2年間の履修を求めています(独自基準)。1年目に基礎知識を養い、2年目には複数の原著論文を要約しつつ、自身の考えを組み入れて、総説としてまとめる作業を行います。単年度の履修を認めることもあります。よほどの場合を除き副専攻認定は難しいと考えてください(難しい主たる原因は学生の皆さんの生物学関連習熟度未達のため)。

授業時間内はその週に行った学習・研究の成果を報告し、議論と質疑応答をおこなう時間となります。資料・文献を読み、情報をまとめる作業は自宅などで行っていただきますので、十分な時間がとれるようにしてください。

最近取り上げた内容(例)は次のようなものです。

1. ゲノム編集を用いた農作物新品種開発とその問題点について
2. プロバイオティクスの効能と表示のあり方について

事前の準備：

高校の「生物基礎」の内容は完全に理解している前提でスタートします。法学部の学生さんでは履修した人は少ないかもしれませんが、高校「生物」の内容にも学習参考書などを利用して目を通しておいってください。大学(理系)教養レベルの教科書を入門に使いますので、レベルを確認しておいてください(『キャンベル生物学』や『アメリカ版大学生物学の教科書』など、図書館にあるものから探してください)。初年度は基礎固めをしたうえで、山中 iPS 細胞論文を読みながら、研究技法や論理構成を学ぶ予定にしています。受講者の希望によってはこれ以外の分子生物学・細胞生物学の論文やテキストを採用することもあります。二年目はヒトを巡る遺伝学・分子生物学関連の分野からテーマを選んでいただきます。

西川伸一(監修)『山中 iPS 細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう』一灯社(2012)

「関連する科目」として履修をすすめる科目：

生物学(実験を含む)I・II および 自然科学研究会 I・II、その他自然科学系の実験科目・特論・教養研究センター設置科目など。担当者は問いませんがなるべく遺伝子関連の内容が多いものを勧めます。

その他：

基本的に日吉第二校舎 231 教室で対面授業を行います。副専攻認定レベルの指導を行うため、希望者多数の場合は準備状況(生物学の基礎知識)や受講動機を聞いて選抜することがあります。また、事前相談無く履修登録した場合は単位を認めません。

事前相談(個別説明会)はなるべく対面で、希望者(個人またはグループ)とメールで日時を打ち合わせた後に行います。まずは ono@keio.jp までメールで問い合わせてください(できるだけ義塾から配布されたアドレスを使用のこと。フリーメールからの問い合わせには返信しないことがあります)。

法学部副専攻認定制度
自然科学研究会
(3・4年生)

こばやし ひろみち 担当者：小林 宏充
テーマ：身の回りの科学研究(物理学)
授業内容： 身の回りの科学現象に関する研究や勉強を実施する少人数のゼミ形式の授業です。普段なぜだろうと思ったことや気になった科学現象を、解き明かしましょう。 問いの設定から解決に至る自然科学の実証プロセス（調査方法・数理科学的な論理的思考法・論文執筆や発表の技法）を学びます。担当者の専門は空気や水などの流れの物理学です。野球などのボールの変化、洗面台の水抜きといった身近な流れ現象から、雲の形成、大気、海洋、温暖化などの気象現象、宇宙まで関連しますが、身の回りの科学現象であれば、テーマは問いません。 春学期は、解き明かしたい科学現象を設定し、それに関連する教科書や文献を講読することで、基礎的な知識を習得・整理し、予備的な研究を実施して報告・討論を行います。秋学期はその科学現象に関して本格的な研究を実施し、その結果を報告・討論して、各自もしくはグループで最終的にレポート（論文）を提出します。文系の感性でブレークスルーを起こしましょう。
事前の準備： 「自然科学」副専攻として認定されることを希望する場合には、この自然科学研究会 III・IV（同一担当者の2クラス）4単位に加えて、日吉設置の実験科目（半期2クラス）6単位と、その他の自然科学科目を合計16単位以上履修する必要があります。また、本研究会で研究活動を行い、研究レポート（論文）を執筆する必要があります。 副専攻の認定を求めない場合でも、自然科学研究会 III・IV は3、4年生対象の科目であり、履修に際して自然科学科目8単位を取得していることを原則とします。 初回の授業までに研究したいテーマ（現象）について、いくつか候補を考えておいてください。
「関連する科目」として履修をすすめる科目： 小林が担当する物理学 I・II（実験を含む）を履修していることが望ましいですが、必須ではありません。物理学、化学、生物学、地学、数学系、情報系の科目の履修を広く推奨します。
その他： ・実験・観測を行う予定があることや資料・設備の関係から、日吉キャンパスで開講します。 ・個別説明会は来往舎の面談スペースで行います。希望者（個人またはグループ）はメールで hkobayas@keio.jp に日時を相談ください。 ・個別説明会の参加は履修の必須要件ではありません。 ・副専攻の認定を求めない方の履修も可能です。